

# ハートパル

2023年  
3月  
25号



毎年3月8日は「国際女性デー」です。



ミモザは、国際女性デーの花として親しまれています。



「国際女性デー」はアメリカで行われた女性参政権を求める運動を起源とし、1975年に国連が制定しました。女性の政治的・社会的自由や平等を呼びかけ、女性の権利について語る日として広がっています。

プラットおおむら4階のハートパルでは、国際女性デーに関するパネルを展示し、ライブラリーでは、書籍を紹介しています。また、市役所1階、ミライON図書館、プラザおおむら1階、中央・中地区・郡各公民館でも展示しておりますので、是非この機会にお立ち寄りください。



## 男女共同参画推進事業講演会 報告



2月23日(木・祝)午後1時半からプラザおおむらホールにて、助産師/性教育 YouTuber のシオリーヌ(大貫詩織)さんをお迎えし、「自分で選ぶために必要な性の知識」と題して講演会を開催しました。

シオリーヌさんは、総合病院産婦人科や精神科児童思春期病棟勤務ののち、学校での性教育に関する講演や性の知識を学べるイベントの講師を勤めてこられました。また、性教育 YouTuber として数多くの動画も配信中で、当日はYouTube ファンの方も参加されるなど、満席になるほどの大盛況でした。今回は高校生を含む10代の参加者も多く、講演会後にステージ上にて向陽高校の生徒さん達を交えての対談コーナーでは、シオリーヌさんが各質問に丁寧にわかりやすく回答してくださいました。



### ★アンケートの声★

- ・性のことやジェンダーについて分かりやすく教えてもらい、勉強になった(10代)。
- ・今、学ぶべきだと思い参加しました。知るべき、伝えるべき課題だと思った(10代)。
- ・自分の価値観や偏見について気づき、今後の見方、人との接し方を変えるきっかけになった(20代)。
- ・学校で習った性教育は何となく恥ずかしかった記憶だけ残っているが、今回の講演を聞いて大事なことだと思った(30代)。
- ・高校生との対談はとても良かった。自分自身気づきもたくさんあり、女性らしくより自分らしく生きたいと思った(30代)。
- ・親として子供の性に関して家庭での教育方法を知りたいと思った(30代)。
- ・男性の参加者が少ないことが気になったが、子供への接し方が勉強になった(40代)。
- ・社会のルールが一方の性に片寄せた考え方を基準としているので、偏見を持った思考に気付いていませんでした。「大人の想いで決めつけない」このことを意識して行動しようと思います(50代)。



# 日本を変えた女性たち



女性の教育環境や活躍の場が極めて限られていた時代に、日本社会を動かした女性たちがいました。女性であるがゆえに、望む教育や活動、職業に就くこと自体が難しかった時代にその壁に挑み、また自身が困難を乗り越えるだけでなく、後続のために壁を崩してきた女性3人をご紹介します。

2歳ですでに結婚相手が決まっており、親から「女に教育は不要」という考えのもと勉学を禁じられ、17歳で大阪の豪商加島屋第8代広岡九右衛門正饒の次男・広岡信五郎と結婚。その後、簿記や算術を独学で学び、明治維新の動乱で傾いた加島屋を夫とともに立て直しに奔走した。その後、「広炭商店」を設立し、石炭事業に参画、「日本石炭会社」を経て、加島銀行を設立。続いて



大同生命創業に参画するなど、明治を代表する女性実業家となった。

その後、日本女子大学校(現:日本女子大学)設立に導き、亡くなる前年まで別荘に若い女性を集め、合宿勉強会を主宰した。



広岡 浅子:1849~1919(69歳没)

農家の三女として愛知県に生まれ、愛知県女子師範学校(愛知教育大学の前身)に入学。良妻賢母教育に反対して授業をボイコットするなど後の婦人運動家としての片鱗を見せていた。卒業後、名古屋新聞の記者職を経て日本初の婦人団体「新婦人協会」を平塚らいてうらと共に設立。女性の集会結社の自由を禁止していた治安警察法第5条の改正を求める運動を展開し、1921年に渡米し、アメリカ合衆国の婦人運動や労働運動を見学して回った。同年、国際労働機関(ILO)の職員となり女性の深夜労働などの実態調査を行い、女性のための様々な運動に関わった。1945年、戦後初の婦人団体「新日本婦人同盟」を結成、会長に就任。衆議院議員選挙法改正で婦人参政権実現。翌年第22回衆議院議員総選挙で39人の婦人議員が誕生した。

長い間、無所属議員として政治の腐敗や汚職を厳しく追求し、87歳で第12回参議院議員通常選挙で全国区でトップ当選し、在職のまま亡くなるまで女性の地位向上や社会のために一生を捧げ続けた。



市川 房枝  
:1893~1981(87歳没)



開拓使嘱託であった父:津田仙の強い勧めで姉に代わり応募した梅子は、わずか6歳で他の子女4人と一緒に渡米した。11年間の留学生活で英語、ラテン語、フランス語、英文学、自然科学、心理学、芸術等を学んだ。



留学時  
右から2番目

帰国後、開拓使制度自体が廃止になっていた日本では梅子たちに活躍の場はなく、転々としながら英語教師や通訳として働いたが、24歳の時に再渡米を果たし、プリンマー大学で生物学を専攻した。3年後帰国した梅子は、精力的に日本女子の教育に生涯をかけ、その後女子英学塾(現:津田塾大学)の創設者となった。



2024年に執行予定の紙幣改定において、五千円紙幣に梅子の肖像が使用されることが決まっている。

津田 梅子  
:1864~1929(64歳没)

女性のための  
相談室

平日 9:00~17:00  
電話と面談

- 一人でも悩まずに
- 秘密を守ります
- 無料です

0957-54-8715(代表電話です)

☆当センターに来所され、市営駐車場(第1~3)ご利用の場合は、無料駐車券を発行します。

【申込先・問合せ先】  
大村市男女共同参画推進センター「ハートバル」  
〒856-0832  
大村市本町458番地2  
プラットおおむら4階(旧浜屋ビル)  
TEL:0957-54-8715 FAX:0957-54-8700  
Eメール: daniyo-s@city.omura.nagasaki.jp  
【問合せ時間】月~金 8:30~17:15(祝・年末年始休)  
※相談室は、9:00~17:00